

# 映像と印刷教材の組み合わせに関する比較研究

## ——心理学の場合——

### 第3セッション

放送教育開発センターで製作し放映した「知能と創造性」およびカリフォルニアのコースト・コミュニティー・カレッジが製作し、PBSのネットワークを通じて全米に放映された「The Growing Years」の中から、遺伝と環境をとりあつかった番組を比較視聴し、それぞれの印刷教材を資料としてふまえつつ、討議を進めた。映画界から木下恵介氏を迎え、教育目的にふさわしい表現方法についてのつつこんだ討議もおこなわれた。

司会（大内筑波大学教授）　これからコースト・テレコースの番組（三十分番組）を最初にごらんいただきます。続きまして、実験番組「知能と創造性」の中の〈遺伝と環境〉（四十五分番組）をごらんいただきます。ただし、時間の都合によりまして、四十五分番組の一部は早送りをさせていただきます。

番組視聴が終わりましたら、太田先生から問題提起をやっていただきます。次いで、木下先生の問題提起をやっていただき、それらに対する田中先生と中川先生のリアクターとしてのお話を続けていただきます。

太田先生は、お茶の水女子大学教授、理学部長でございます。

木下恵介先生は、高名な映画監督で、これまでに四十七本の作品を発表され、今年度のマキノ省三賞をこの間お受けになりました。一貫したヒューマンイズムの作品の功績が賞揚されたということだと思います。

それと同時に、木下先生は教育番組の熱心な視聴者でいらっしゃるしまして、NHK第三チャンネル、それから、放送大学の実験番組なども大変熱心にご覧になっているとお伺いしております。

田中正吾先生は放送教育開発センターの教授で、教育学、教育心理学のご専攻であります。中川大倫先生は心理学のご専門で、放送大学の教授でございます。それぞれのお立場から討議をいただきます。

早速番組を拝見したいと思います。

両方とも、テーマを「遺伝と環境」にしました。アメリカのテレコースの「遺伝と環境」の番組、これは三十分のシリーズの中の一本です。

田中先生の「知能と創造性」の中の〈遺伝と環境〉、これは十五本から成り立つシリーズの中の一本です。

#### 番組視聴

##### 1 The Growing Years

##### 2 知能と創造性

二つの番組を見ていただきました。昨日午後の第二セッションで6つの型を提示し

ていただきました試作番組との関連で申しますと、きょう拝見した二つの番組は、それぞれ「ナレーターの解説によるドキュメントの型」と「スタジオ型」に近いものというように拝見したわけです。

「映像と印刷教材の組み合わせに関する比較研究」——心理学の場合——ということで、いま拝見いたしました映像、それから、資料集に収録及び翻訳して載っております印刷教材と、どう結びつけていけば教育効果が一層上がるのか、問題はそこにくると思うのであります。このテーマについて、太田先生から問題提起をいただきたいと思っています。

#### 対照的なアプローチ

太田（お茶の水女子大学）　ただいま遺伝と環境について二つのテレビジョンの番組を拝見いたしまして、映像と印刷教材の関係を論ずるわけですが、このテーマはいずれも大変映像化しにくいテーマであろうと思います。材料が非常に得にくいテーマであったと思います。それをコースト・コミュニティー・カレッジのテレコースの方では大変いろいろな映像を並べて、たとえばその中には、ヘマンサスという植物の細胞分裂が出ておりましたけれども、あの映像は実は日本で撮ろうと思っても撮れないような映像ですが、そういうものを使って、何とかして遺伝と環境というものを絵で綴ろうとしている感じがいたします。

これは欧米型のテレビジョンのあり方でございまして、たとえばイギリスの公開大学の番組でも、テーマは違いますが、大体同じような手法が多い。ナレーションが多くて、あのような形式をとっているようです。恐らく、印刷教材がきわめて完備している場合にああいうやり方が使えるのでして、印刷教材が完備していない場合にはあのようなやり方は余りできない。つまり、大きく分けていき